

近畿産業考古学会

The Kinki Industrial Archaeology Society

第 131 号

目次

1. 2023 年度総会行事開催のご案内	1
2. 2023 年度総会議案書面議決のお願い	2
3. 2023 年度会費納入のお願い	2
4. 次回見学会の予告	2
5. 「堂島・蔵屋敷跡と北浜・金融街を巡る見学会」 見学記	寺島俊之 2
6. 「ヤマザキマザック工作機械博物館」を見学して	二階堂達郎 4
7. 【出版物紹介】『絵葉書で訪ねる関東地方の橋』	5
8. 【短信】JR 帯解駅舎の保存活用について	5
9. 【お知らせ】「旧乾邸」特別観覧開催	5
10. 学会誌の電子ジャーナル公開について	6
11. 2022 年度第 5 回役員会議事録	6

2023 年度総会行事開催(ハイブリッド)のご案内

今回総会は、ハイブリッド方式(オンラインによる参加可)で開催します。ただし、総会議案は書面議決とします。

・開催日：2023 年 4 月 15 日(土)

・会場：大阪くらしの今昔館・5 階 研修室 1

・午前中の見学会：8 階・受付前、10：30 集合。

館内展示(常設展+企画展「大阪の長屋」)を見学します。企画展は館の方に案内をしていただきます。

入館料(常設展+企画展)：600 円(大阪市内在住の 65 歳以上の方は無料)、資料代：500 円。

見学後、各自、館外で食事をお摂りいただき、その後、5 階の会場(研修室 1)にお集まり下さい。

・開場・受付開始：13：00

・開会：13：15

司会：岡田副会長、オンラインホスト：貝柄幹事。

講演前に、中山会長に挨拶をいただきます。

・特別講演：13：30～15：00

「大阪の近代長屋について」

和田康由氏(元大阪市立高校建築科教諭)

講師紹介：二階堂幹事

「大阪の近代長屋」とは、近世から存在した裏長屋とは異なり、明治期に導入された大阪府に特有な法制度の下で建設された近代の長屋のことである。大正後期から昭和初期にかけての「大大阪」期に、関一市長の施策下で、多様な長屋が多数建設された。これらの長屋は、居住用に供されたほか、「町工場」として起業の孵卵器の役割も果たした。この研究分野の第一人者である和田氏にご講演いただく。

・研究発表講演会：15：10～

(1)「王子公園の歴史的意義と今日的課題」

橋本健治氏、中尾嘉孝氏(非会員)

現在、神戸市の王子公園(灘区、神戸博開催地 1950(昭和 25)年)再整備計画が進行中で、大学誘致のために都市公園を売却縮小し、国体遺産のスタジアム移転など公園諸施設が大改造される諸問題に際して、当地の歴史的意義と課題について報告を受ける。

(2)「栗原邸」紹介ビデオの放映 若林あかね氏

栗原邸は京都市山科区に所在、本野精吾の設計による 1929(昭和 4)年築のモダニズム建築で、国の登録有形文化財になっている。現在、売却物件となっている。

参加希望者は、実参加・オンライン参加にかかわらず)4 月 12 日(水)までにメールか FAX で事務局にお申込ください。

オンラインによる参加には、Web 会議ソフト「Zoom」を使用していただきます。パソコン、タブレット、スマートフォンのいずれでも参加いただけます。参加法はお申込時にご案内します。

2023 年度総会議案の書面議決のお願い

2023 年度総会は、準備段階で新型コロナウイルスの感染状況の行方が確実に見通せなかったため、昨年度に引き続き、特例措置として、総会議案のメールや書面によって議決することにしました。

同封または添付の「議案書案」をご覧の上、以下の方法で「賛成・否認」を明記して、ご回答下さい。

【メール配信で本紙を受けとっておられる会員】

配信メールの記入欄に「賛成・否認」のいずれかを選択した上で、メールをご返信ください。

【郵送で本紙を受けとっておられる会員】

同封はがきの記入欄に「賛成・否認」のいずれかに○を付けて、ご投函ください。

締め切り：4 月 22 日(土)

なお、前回同様、議決については会則の第 13 条を準用し、会員総数の 4 分の 1 以上の回答（会則では出席＋委任状）をもって成立と見なし、過半数の賛成をもって決すこととします。

2023 年度会費納入のお願い

2023 年度会費の納入をお願いします。納入のご案内と振込用紙を郵送しますので、郵便局の ATM か窓口で振込手続きをお願いします。手数料はご負担下さい。

未納のある方には、過年度分も併せた納入のご案内と振込用紙をお送りしますので、よろしくお願いします。

次回見学会の予告

JR 桜井線には駅舎の歴史的建造物が多く残ります（後掲の「短信」記事を参照）。各駅の保存活用の現状と課題について「帯解駅舎保存・活用の会」「JR 畝傍駅舎の保全活用を進める会」の方にお話をいただきながら、「街歩き」を主体とする見学会として実施します。

・開催時期：5 月 27 日(土)

・集合（予定）：JR 桜井線「畝傍」駅改札口、13：30

・主な見学先（予定）：

JR 桜井線の「畝傍」「柳本」「帯解」「京終」の各駅舎。

詳細は次号でご案内します。

「堂島・蔵屋敷跡と北浜・金融街を巡る見学会」

見学記

寺島俊之

3 月 9 日(木)に頭記の見学会を開催した。

【オプション見学】

地下鉄四つ橋線肥後橋駅南改札に 11：50 に集合。参加者は阪神文化財研究会会員も含め 20 名であった。見学先は以下の 2 カ所である。

①日本基督教団大阪教会

西区江戸堀一丁目に位置する。江戸堀は 1955(昭和

30)年に埋め立てられたが、徳川幕府による統治下で最初に開削された人工河川である。古地図を見ると大阪湾と西横堀川との間に、江戸堀川・京町堀川・阿波座堀川が街路のように並行する。これらの河川に挟まれた地域は大阪湾に対する巨大な櫛形突堤を形成していたと考えられる。川沿いに各藩の蔵屋敷が立ち並び荷揚げが行われた。

日本基督教団大阪教会（竣工：1922(大正 11)年，設計：W.M. ヴォーリズ，国登録有形文化財 1996 年）には肥後橋駅から徒歩数分で到着した。主任牧師である本庄侑子様に出迎えて頂き、パイプオルガンが演奏される正午礼拝（木曜定例）に参列する。



写真 1 日本基督教団大阪教会外観見学シーン

同教会は、1874(明治 7)年の創立で、国内最古級のプロテスタント教会である。江戸期の豪商である加島屋を再興し大同生命の礎を築いた、広岡浅子が受洗したことで知られる。同教会は大正期における赤煉瓦建築であるが、礼拝堂が二階に位置し一階部分に窓が少ない点を特徴とする。これは防火と水害対策の可能性もある。確かに大阪空襲で周辺が焼け野原となっても同教会は無事であった。建物正面のバラ窓は正午になると礼拝堂に光が射すよう設計された。礼拝堂が二階とされた事情には「バラ窓からの光」も考慮されたのかもしれない。なお、礼拝堂ではどの参列席からも正面牧師に向くよう配慮されている。ヴォーリズの秀作と言える。



写真 2 大阪教会の内部前方（撮影：岡田広一）

木製の長椅子からなる座席は、どの着席位置からも正面の牧師に向くように設計されている。

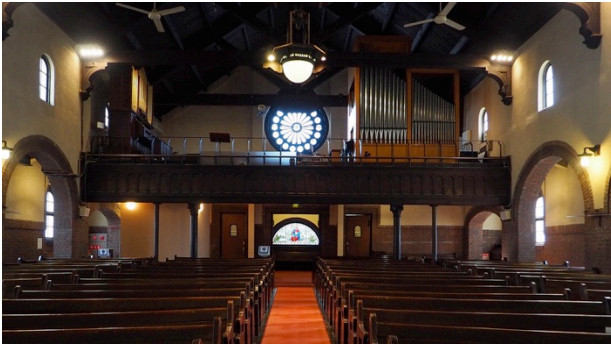


写真3 大阪教会の内部後方（撮影：岡田広一，一部カット）

後方階上中央のバラ窓から光が差し込む。その左右に2台パイプオルガンが置かれている。

②梅花女学園発祥の地（石碑）

女子高等教育の重要性を痛感していた広岡浅子ゆかりの地である。この石碑は肥後橋駅前（西区江戸堀1-13-10）の住友クラブ建物南側に位置する。梅花女学園の創立は1878(明治11)年。梅花女学園校長・成瀬仁蔵と浅子との出会いが後年の日本女子大学創設の契機となった。日本女子大学校（現日本女子大学）は、わが国初の女子高等教育機関として知られる。創設者は成瀬で東京目白の敷地は浅子の実家である三井家からの拠出である。

【本見学】

①大同生命保険大阪本社

ビル正面入口に13:30に集合。午後からの参加者も含め21名であった。入口で、コーポレートコミュニケーション部社史担当課長である吉田一正様に出迎えて頂き、二階メモリアルホールに案内される。この部屋は旧本社ビル（1925(大正14)年～1990(平成2)年）を設計したW.M.ヴォーリズに敬意を表し、旧ビルの意匠を継承する。広岡浅子をモデルとした、NHK朝の連続テレビ小説「あさが来た」が2015(平成27)年に放送されると加島屋が世間の注目を浴びた。「特別展示：大同生命の源流“加島屋と広岡浅子”」は物語の背景を理解できる内容である。展示は以下の3テーマで構成される。

- 1) 大坂の豪商・加島屋
- 2) 九転十起生・広岡浅子
- 3) 大同生命の創業から現在

江戸時代、大坂には各藩の蔵屋敷が集中し、諸国の年貢米の集散地となった。17世紀には米市場が形成され、有力な商人が出現する。加島屋は初代久右衛門（加久）が1625(寛永2)年に創業したと伝わるが、急成長を遂げたのは18世紀半ばで、1730(享保15)年、堂島米市場が幕府に認可された際、米会所の米方年行司（頭取）に任命されたことで、地位を固めたことがわかる。堂島米市場は19世紀初頭に最盛期を迎える。

諸藩は年貢米を入札によって売却して資金を調達、落札者には米切手が発行され、盛んに取引された。その取引には、正米商い（現物取引）と帳合米商い（帳

簿上の先物取引）とがあり、後者を公認した堂島米市場は世界最初の先物取引市場であったとされる。

有力商人は蔵屋敷を対象に「掛屋・蔵元」（蔵物の売買・管理）「大名貸し」（融資）の業務を担い、付随する両替業務も営んでいた。加島屋は、とくに「大名貸し」で力を発揮し、財をなした。御用金の拠出や幕府との折衝に、他の有力商人ともに加わっている。

明治維新を迎えると廃藩置県等の社会変革によって大坂豪商に試練の時代が訪れた。加島屋も例外とならず経営立て直しに九代目当主の兄夫婦である、広岡信五郎・浅子も参画した。浅子は京都の出水三井家の出身。加島屋を炭鉱、保険など近代的な企業グループに変革させる一方、女子教育にも心血を注ぎ日本女子大学の創立にも尽力した。浅子は近代日本における女性実業家の先駆者であった。生命保険事業に託した「社会の救済」と「人々の生活の安定」という想いは、いまでも大同生命に受け継がれている。

質疑応答では「大名国替えにおける債務の扱い」や「加島屋・炭鉱事業における浅子の実家・三井家による援助」等が議論された。



写真4 メモリアルホール展示の見学シーン



写真5 旧本社ビルのテラコッタの外壁とピナクル

予定どおり14時半に大同生命大阪本社ビルを退出し、以後は街歩きによる見学会となる。④から⑪（⑧を除く）は主に石碑巡りである。実際に歩くことによって位置関係を体感した。物流の立場からは米袋搬送における雨天対策や落下事故での対処方法に関心がある。現在の輸出貨物業務と類似した責任分界点もあったのかもしれない。

④手形交換所跡・住友銀行（現三井住友銀行）大阪本店ビル

⑤長州藩蔵屋敷跡（石碑）

⑥中津藩蔵屋敷跡・福沢諭吉誕生地（石碑）

【電車で移動】

京阪電車・中之島線「中之島駅」→「大江橋駅」

⑦堂島米会所跡（記念碑）

⑧曾根崎川（硯川）跡

⑨水晶橋（旧堂島川可動堰）、佐賀藩蔵屋敷跡・舟入橋跡（石碑）

⑩近代中之島・北浜の景観（日本銀行大阪支店旧館、大阪市中央公会堂、大阪府立中之島図書館など、遠景）

⑪大阪株式取引所（現大阪取引所）・金相場会所跡（説明板）。



写真6 舟入橋跡（石碑）の見学シーン

明治維新では各藩の蔵屋敷は県庁大阪事務所へ承継されなかった。新政府に接收されて病院や教育機関等に変容した。大阪取引所正面まで歩き16:30に現地解散した。

今回の見学会を開催するに当たり、日本基督教団大阪教会主任牧師である本庄侑子様ならびに大同生命保険株式会社コーポレートコミュニケーション部社史担当課長である吉田一正様にはお世話になりました。厚く御礼申し上げます。

（参考文献）

- ・〔地図〕古賀秀策 原図作成「浪花の繁栄：大阪三郷の商工」「近代都市の構築：大大阪の生活と文化」大阪都市協会1989年。
- ・高槻泰郎編著『豪商の金融史 廣岡家文書から解き明かす金融イノベーション』慶應義塾大学出版会、2022年7月15日。
- ・『月刊島民』（地域情報誌）
Vol. 86 豪商、どうでしょう。（2015年9月1日発行）
Vol. 112 橋梁これくしょん（2017年11月1日発行）
Vol. 122 大阪市中央公会堂（2018年9月1日発行）
<https://nakanoshima-daigaku.net/>

「ヤマザキマザック工作機械博物館」を見学して
二階堂達郎

2022年12月2日（金）、「ヤマザキマザック工作機械博物館」を見学させていただいた。前日の「三共工作機械資料館」（中部産業遺産研究会主催）に引き続いての工作機械ミュージアムの見学である。

ヤマザキマザック株式会社は、1919（大正8）年創業の

大手工作機械メーカーである。創業当初（社名は山崎鉄工所）は畳製造機を手掛けていたが、やがて木工機械の生産に着手する。1931（昭和6）年から工作機械の製造を開始し、戦後一時期の中断を挟んで、1959（昭和34）年から生産を再開した。他社に先駆けて輸出に乗り出し、海外生産も積極的に展開している。

博物館は緑豊かな丘陵地にあり、公園に隣接している。敷地27,000㎡、延べ床面積10,000㎡、展示フロアは地下2階（深さ11m）に設けられている。入り口は、ルーブル美術館を想起させるガラス製ピラミッドの形状をなしている。

同社は、40年以上前から工作機械の収集を開始し、博物館設立の準備を重ねてきた。10数年をかけて約120台を動態可能な状態で整備し、このうち76台を展示している。展示は、①産業革命以前、②産業革命期、およびその後の技術革新を3段階（③モータ直結式、④NC工作機械、⑤スマートファクトリ*）に区分された5つのゾーンから構成されている。



写真1 館内展示

産業革命以前のゾーンでは、人力駆動の弓旋盤やボール旋盤、レオナルド・ダ・ビンチが考案したねじ切り旋盤が展示されている（いずれも複製）。産業革命期の展示では、「モーズ レイのねじ切り旋盤」（複製）がとくに印象的であった。自動送り台が付いたこの金属製の小さな旋盤が、ねじの切削から始めてあらゆる種類の機械部品の精密加工と量産の道を切り拓き、産業革命の技術的基礎を築いたと考えると感慨深いものがある。

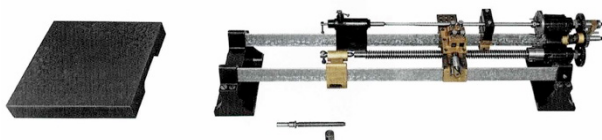


写真2 「モーズ レイのねじ切り旋盤」（製造年：1797年、『ヤマザキマザック工作機械博物館 図録』より）

20世紀に普及したモータ直結式工作機械は、ベルト掛け機械がもつ制約を取り払い、機械配置と工場のレイアウトの自由度を格段に高めた。これにより、フォード・システムのような流れ作業式組立ラインが可能になり、工場の姿を一変させたことを想起するとこれも感慨深い。コンピュータ制御の工作機械装置の展示では、ス

マートファクトリなど工場のさらなる変貌を予感させられた。

工作機械の所産である代表的な工業製品として、蒸気機関車 (D51)、自動車 (T型フォード)、ヘリコプターなども展示されている。展示パネルやディスプレイでの解説は小学生でも理解できるように配慮され、ワークショップ向けの体験室も設けられているなど、次世代を担う子どもたちにモノづくりへの関心を伝える工夫がなされている点が印象的である。

産業遺産学会は、同館が収蔵する工作機械2台(「ベルト掛け山崎旋盤」とグールド社製「ベルト掛け平削り盤」)を「推薦産業遺産」に認定している(2021年度)。いずれも歴史的価値がある希少な工作機械であり、動態保存されている点が高く評価された。

当日は、館長の長江昭充様に直々ご案内をいただいた。副館長の高田芳治様とは、前日の三共工作機械資料館の見学にご一緒し、何かとお世話になった。お二方に厚く御礼申し上げる。

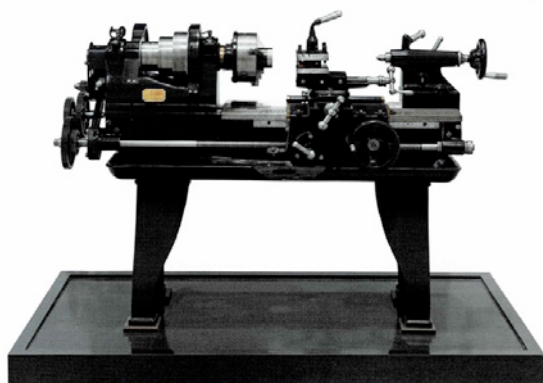


写真3 「ベルト掛け山崎旋盤」(製造者: 山崎鉄工所(現ヤマザキマザック)、1927年製造、同上より)

写真4(右) グールド社(E. GOULD & Co.)製「ベルト掛け平削り盤」(1860年製造、同上より)



注

* 工場内の機器や生産ラインをネットワークで接続し、生産効率や品質管理の向上を図った工場のこと。

ヤマザキマザック工作機械博物館:

- ・所在地: 岐阜県美濃加茂市前平町3-1-2
- ・開館時間: 10:00~16:30 (最終入場は16:00まで)
- ・休館日: 月曜(祝日の場合は火曜が休館)、年末年始
- ・入館料: 大人 500円。

【出版物紹介】

『絵葉書で訪ねる関東地方の橋』

(日本絵葉書会関西支部、編著者: 中元雄治)

本冊子(A4・48ページ・フルカラー、2023年1月10日発行)は、日本絵葉書会が発行する「絵葉書で訪ねる橋」のシリーズである。編著者は本会会員である。編著者が所蔵する絵葉書の中から、主に江戸期から昭和期までに架けられた、関東地方の貴重な橋(重要文化財、登録文化財や土木学会の選奨土木遺産など)が多数掲載されている。

編著者は、これまで近畿地方をはじめ全国各地の橋を取り上げてきたが、これまでで最も多い350葉が掲載されている。関東7都県ごとに取り上げられているが、東京都では「隅田川の橋」、神奈川県では「横浜港の橋」が独立した一括りとして取り上げられている。これらの橋では、橋梁技術における近代化の歴史を読み取ることができる。また、前者(隅田川)の橋梁群では、関東大震災による被災や復興の状況を撮影したものが掲載されており、復興の過程を見て取ることができ、とくに興味深い。



代金(1部): 1,200円、送料310円。支払方法: 切手申込・問い合わせ先: [E-mail] y52749n@yahoo.co.jp

【おびとけ】 【短信】JR常解駅舎の保存活用について

JR 桜井線常解駅舎(奈良市今市町)では、来年度から老朽化した駅舎の耐震化や再整備工事が始まる予定だ。

京都と奈良を結ぶ奈良鉄道(当時)が、1898(明治31)年に開業した同駅舎に、保存の機運が高まったのは2019年で、地元住民らが市に保存を訴えたことを契機に、2021年には市がJR西日本から駅舎の建物を無償

で譲り受け、昨年、国の登録有形文化財に登録された。駅舎の歴史的価値を地域活性化につなげたいと期待を寄せる地元が大正時代の意匠に復元したいと望む一方、行政は昭和40年代を主張しており、文化財復元をどの時代とするのか、今後の動きが注目される。

「帯解駅だけでなく、京終^{きょうばて}、櫛本^{いちのもと}、柳本^{やなぎもと}、そして畹町^{うんぢょう}の各駅が歴史的な建物として保存され、奈良平野部全体の美しい景観保全につながることを祈っております。駅舎は奈良の財産です。」帯解駅舎保存・活用の会では、日本の故郷である奈良県には格別な配慮が必要ではと主張している。

【お知らせ】「旧乾邸」特別観覧開催

神戸市指定有形文化財・指定名勝「旧乾邸」が事前申込により限定公開される。同邸は昭和11年頃、乾汽船創業者、乾新治の自邸として建築された阪神間モダンイズムを象徴する大邸宅で、関西を代表する建築家・渡辺節が設計した。最近ではドラマ「探偵ロマン」のロケ地としても話題になった。

- ・所在地：神戸市東灘区住吉山手5丁目1-30
- ・開催期間：5月18日(木)～24日(水)
- ・申込方法：往復はがきによる事前申込制。4月12日(水)消印有効。抽選。
- ・料金：入場無料
- ・詳しくは下記サイトでご確認ください。
<https://www.city.kobe.lg.jp/a44881/528923526979.html>



写真 旧乾邸外観（撮影：2014/7/24）

学会誌の電子ジャーナル公開について

科学技術振興機構(JST)より提供された2023年1、2月分のアクセス統計（クローラーによるアクセスを除外）の概要です。

- ・2023年1月：
掲載論文数（これまでに掲載済みの分）：16
書誌事項へのアクセス数：合計 196回
全文PDFへのアクセス数：合計 135回
（アクセス数が最も多かった論文：書誌事項；40回、全文PDF；31回）

- ・2023年2月：
書誌事項へのアクセス数：合計 85回
全文PDFへのアクセス数：合計 382回
（アクセス数が最も多かった論文：書誌事項；22回、全文PDF；106回）

2022年度第5回役員会議事録

日時：2023年1月11日(水) 19:15～20:20、オンライン開催

参加者：中山会長、岡田副会長、貝柄幹事、寺島幹事、二階堂幹事、溝口幹事、若林幹事

議事：

1. 前回役員会議事録の承認
 2. 見学会
堂島・北浜の街歩き：3月9日(木)に開催、予備日は3月23(木)。見学先を確認。
 3. 2023年度総会開催・開催議決方法
開催日：2023年4月15日(土)、ハイブリッド方式で開催する場合は、会場を「大阪くらしの今昔館」とし、特別講演を増井館長に依頼する提案あり、検討・打診する。(担当：二階堂幹事)。議案の書面議決を確認。
 4. 2022年度年次大会（報告）
参加者：13名。
 5. 学会誌第17号原稿募集
申込締切日：論文は受付終了、論文以外；2月28日。
現時点での掲載予定原稿：論文1点（中山）、講演記録2点（二階堂・貝柄、寺島）
 6. 学会誌の電子ジャーナル公開について（報告）
 7. ニュースレター130号
1月中に発行予定。
 8. 調査・研究について
大手前大学史学研究所：関西電力堺港発電所・調査報告書刊行見込み、津守下水処理場：現地調査開始。
 9. その他
京都府立京都学・歴彩館より学会誌欠号分の寄贈依頼あり。ユニチカ記念館の現況、自転車部品をめぐって意見交換。
- 次回役員会：2023年3月29日(水)、19:15～。

2023年4月1日発行

編集 近畿産業考古学会 編集委員会

発行 近畿産業考古学会 会長 中山嘉彦

URL: <http://kinias.jp>

事務局 564-8511 大阪府吹田市岸部南2丁目36番1号

大阪学院大学 経済学部 中山嘉彦研究室気付

Tel: 06-6381-8434 (代), Fax: 06-6382-4363 (代)

E-mail: kinias-ec@nifty.com

会費納入先(郵便振替)

口座番号：00950-9-150085, 加入者名：近畿産業考古学会